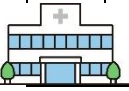

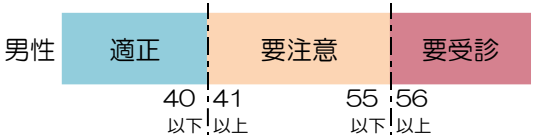
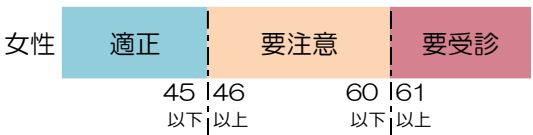
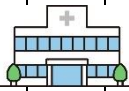
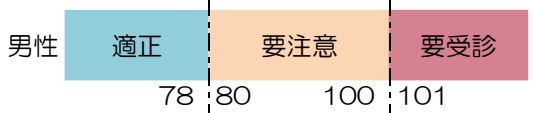
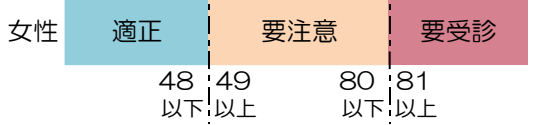
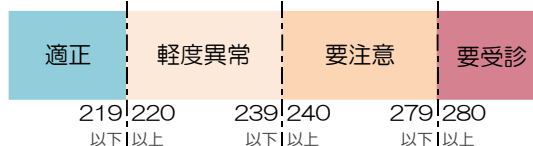

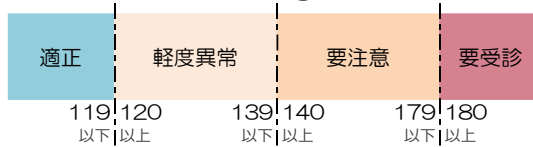
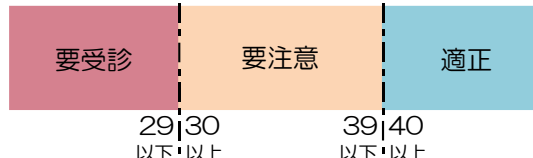
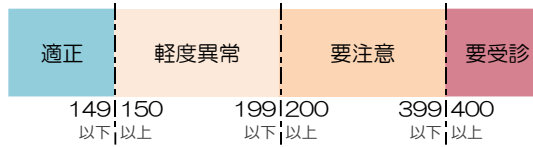


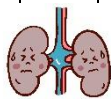
健康診断結果について Part.2

2024年 Vol.182

主に法定健診に定められている血液検査・尿検査を説明いたします。

検査項目	説明	基準値
 貧血 異常値の際は内科へ	赤血球の中に含まれるタンパク質で、酸素と結合して全身に運ぶ役割を担っている。不足すると、赤血球数が基準値内でも、鉄欠乏性貧血の可能性が高くなる。 高値：多血症 低値：鉄欠乏性貧血、慢性出血性貧血など	血色素 <g/dL> 男性 要受診 要注意 適正 要注意 要受診 12.4 12.5 13.5 13.6 18.3 18.4 19 19.1 女性 要受診 要注意 適正 要注意 要受診 10.8 10.9 11.1 11.2 15.2 15.3 16.5 16.6 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上
	全身の組織に酸素を運び、二酸化炭素を持ち去る「ガス交換」の働きをする赤血球。少なくなると、細胞が酸欠状態となる。 高値：多血症 低値：貧血など	赤血球 <万/μL> 男性 要受診 要注意 軽度異常 適正 軽度異常 要注意 要受診 359 360 380 381 437 438 577 578 620 621 649 650 女性 要受診 要注意 軽度異常 適正 軽度異常 要注意 要受診 319 320 340 341 375 376 516 517 539 540 599 600 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上
 ヘマトクリット	一定の血液中に含まれる赤血球の容積を示す。血球のほとんどは赤血球で占められているため、低値だと貧血が疑われる。 高値：多血症、脱水症 低値：貧血など	ヘマトクリット <%> 男性 要受診 要注意 適正 軽度異常 要注意 要受診 36.9 37 40.3 40.4 51.9 52 55 55.1 60 60.1 女性 要受診 要注意 適正 軽度異常 要注意 要受診 31.9 32 34.2 34.3 45.2 45.3 48 48.1 55 55.1 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上
	白血球はからだの中に細菌やウイルスが侵入してくるとどんどん増えて、それらの外敵をやっつける働きをしている。つまり白血球が増えているということは、体のどこかに炎症が起きている、細菌やウイルスが入ってきて、病気が起きていることを示している。 高値：細菌感染、心筋梗塞、がん・白血病 低値：骨髄異形成症候群・ウイルス性感染症 薬剤アレルギーなど	白血球 </μL> 男性 要受診 要注意 適正 要注意 要受診 2999 3000 3499 3500 9700 9701 10999 11000 女性 要受診 要注意 適正 要注意 要受診 2499 2500 3499 3500 9700 9701 9999 10000 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上
 白血球 異常値の際は内科へ		

 肝機能 異常値の際は 肝臓内科 へ	AST (GOT) AST は肝細胞と心筋、骨格筋に多く含まれる酵素で、ALT は肝臓のみに多く含まれる酵素。どちらも肝細胞に障害があると血液中に漏れ出てくるため、値が上昇する。	AST (GOT) <U/L> 男性 
	ALT (GPT) 高値 (ALT < AST) : アルコール性肝炎、肝硬変、肝機能障害など 高値 (AST < ALT) : 急性・慢性肝炎、脂肪肝など AST のみ高値 : 心筋梗塞、多発性筋炎、溶血性貧血など	ALT (GPT) <U/L> 女性 
 γ-GT (γ-GTP) 肝臓の解毒作用に関係する酵素で、とくに過度の飲酒によるアルコール性肝障害で値が上昇する。性差があり、女性は男性より低値を示す傾向がある。 高値 : アルコール性肝障害、閉塞性黄疸、胆石症、肝炎、急性膵炎など	γ-GTP <g/dL> 男性 	γ-GTP <g/dL> 女性 
	総コレステロール コレステロールは細胞やホルモンを作るためには欠かせないものだが、増えすぎると動脈の内側に沈着して、動脈硬化を進行させる。食事から摂取する以外にも肝臓で作られるため、肝細胞が破壊される肝硬変などでは、値が低下する。 高値 : 脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症など / 低値 : 甲状腺機能亢進症、肝硬変など	総コレステロール <g/dL> 
 脂質 異常値の際は 内科 へ	LDL コレステロール 全身にコレステロールを運ぶ役割があり、増えすぎると動脈硬化の原因となることから、「悪玉コレステロール」とも呼ばれている。 高値 : 脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症など / 低値 : 甲状腺機能亢進症、肝硬変など	LDL-コレステロール <g/dL> 
	HDL コレステロール 「善玉コレステロール」とも呼ばれ、血管壁に付着した余分なコレステロールを回収して肝臓に運び、動脈硬化を防ぐ働きをする。喫煙、運動不足、肥満などが原因で低くなることがある。 低値 : 脂質異常症、動脈硬化症など	HDLコレステロール <g/dL> 
中性脂肪 主に体のエネルギー源となる脂肪の一種。食べすぎ、アルコールの飲みすぎ、肥満によって高値になる。また、動脈硬化の発症、進行にも関係する。 高値 : 脂質異常症、脂肪肝、動脈硬化症、甲状腺機能低下症 / 低値 : 低栄養、甲状腺機能亢進症など	中性脂肪 <g/dL> 	



腎臓に関連する項目

異常値の際は腎・泌尿器科・内科へ



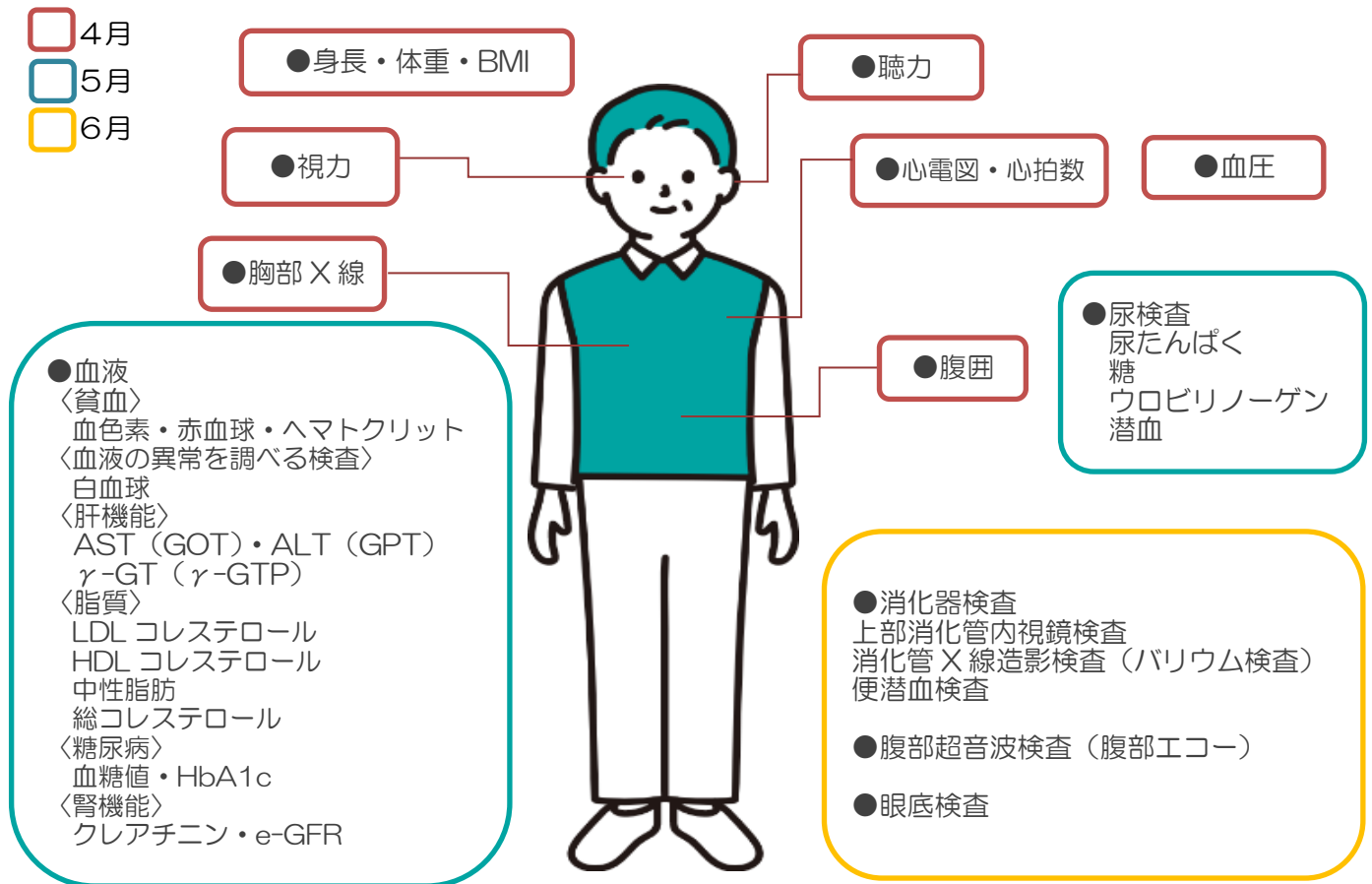
血糖値異常値の際は内科へ



<p>クレアチニン</p>	<p>老廃物の一種で、腎臓が正常に働いていれば、ほとんどが尿中に排泄されるが、腎機能が低下すると、血液中の値が増加する。</p> <p>高値：糸球体腎炎、腎機能障害 低値：筋ジストロフィーなど</p>	<p>クレアチニン <g/dL></p> <table border="1"> <tr> <td>男性</td> <td>適正 1.09</td> <td>要注意 1.10</td> <td>要受診 1.40, 1.41</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>適正 0.82</td> <td>要注意 0.83</td> <td>要受診 1.09, 1.10</td> </tr> </table>	男性	適正 1.09	要注意 1.10	要受診 1.40, 1.41	女性	適正 0.82	要注意 0.83	要受診 1.09, 1.10				
男性	適正 1.09	要注意 1.10	要受診 1.40, 1.41											
女性	適正 0.82	要注意 0.83	要受診 1.09, 1.10											
<p>eGFR (糸球体ろ過量)</p>	<p>腎臓が老廃物を排泄する能力を調べる検査。クレアチニンの値と年齢、性別から推算する。慢性腎臓病(CKD)の診断、重症度判定に用いられる。</p> <p>低値：慢性腎臓病(CKD)</p>	<p>eGFR <ml/分/1.73m²></p> <table border="1"> <tr> <td>要受診</td> <td>要注意</td> <td>適正</td> </tr> <tr> <td>44</td> <td>45</td> <td>59, 60</td> </tr> <tr> <td>以下</td> <td>以上</td> <td>以下, 以上</td> </tr> </table>	要受診	要注意	適正	44	45	59, 60	以下	以上	以下, 以上			
要受診	要注意	適正												
44	45	59, 60												
以下	以上	以下, 以上												
<p>尿蛋白</p>	<p>健康な人の場合、尿中にタンパクはほとんど現れないが腎臓に障害が起こると、尿に漏れ出てくることがある。発熱時や疲労により、一時的に陽性になることもある。</p> <p>陽性：糸球体腎炎、糖尿病腎症、ネフローゼ症候群、妊娠高血圧症候群など</p>	<p>尿蛋白</p> <table border="1"> <tr> <td>適正</td> <td>要注意</td> <td>要受診</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>±</td> <td>1+</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2+</td> </tr> </table>	適正	要注意	要受診	-	±	1+			2+			
適正	要注意	要受診												
-	±	1+												
		2+												
<p>尿糖</p>	<p>血糖値が高い状態が続くと、尿中に糖が漏れ出てくるため、糖尿病の診断や経過観察に役立つ。</p> <p>陽性：糖尿病・腎性糖尿など ※糖尿病治療薬で陽性となる場合あり</p>	<p>尿糖</p> <table border="1"> <tr> <td>適正</td> <td>要注意</td> <td>要受診</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>±</td> <td>1+</td> </tr> </table>	適正	要注意	要受診	-	±	1+						
適正	要注意	要受診												
-	±	1+												
<p>ウロビリノーゲン</p>	<p>ウロビリノーゲンは胆汁に含まれるビリルビンが腸内細菌によって分解されてできる物質で、大部分は便として排泄される。しかし、肝臓が処理できないほどのビリルビンが作られたり、肝臓自体に障害があって処理できなくなると尿中にウロビリノーゲンが多く出る。尿中のウロビリノーゲンの増減によって、肝臓や胆道の異常を調べる。</p> <p>陽性：肝臓障害、溶血性貧血 陰性：胆道閉塞、抗生物質の大量投与など</p>	<p>ウロビリノーゲン</p> <table border="1"> <tr> <td>適正</td> <td>軽度異常</td> <td>要受診</td> </tr> <tr> <td>N</td> <td>1+</td> <td>2+</td> </tr> </table>	適正	軽度異常	要受診	N	1+	2+						
適正	軽度異常	要受診												
N	1+	2+												
<p>尿潜血</p>	<p>腎臓、尿管、膀胱、尿道などの尿路に何らかの異常があると、尿中にわずかに赤血球が含まれることがある。これを尿潜血という。通常は肉眼では分からない微量な血液が含まれているかどうか調べられる検査。月経中の女性の場合、尿中に血液が混ざりやすいため、尿潜血反応に異常が出やすいので、月経が終わってから検査をするほうがおすすめ。</p> <p>陽性：糸球体腎炎、膀胱炎、尿路結石など</p>	<p>尿潜血</p> <table border="1"> <tr> <td>適正</td> <td>軽度異常</td> <td>要注意</td> <td>要受診</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>±</td> <td>1+</td> <td>2+</td> </tr> </table>	適正	軽度異常	要注意	要受診	-	±	1+	2+				
適正	軽度異常	要注意	要受診											
-	±	1+	2+											
<p>血糖値</p>	<p>健康な人の場合、血糖値が上がると膵臓からインスリンというホルモンが分泌され、血糖値を下げる働きをしている。しかしインスリンが不足したり作用が不十分だと血糖値が高いままの状態が続き、糖尿病と診断される。</p> <p>高値：糖尿病、慢性膵炎 低値：甲状腺機能低下症、下垂体機能低下症など</p>	<p>血糖値 <g/dL></p> <table border="1"> <tr> <td>適正</td> <td>軽度異常</td> <td>要注意</td> <td>要受診</td> </tr> <tr> <td>99</td> <td>100</td> <td>109, 110</td> <td>125, 126</td> </tr> <tr> <td>以下</td> <td>以上</td> <td>以下, 以上</td> <td>以下, 以上</td> </tr> </table>	適正	軽度異常	要注意	要受診	99	100	109, 110	125, 126	以下	以上	以下, 以上	以下, 以上
適正	軽度異常	要注意	要受診											
99	100	109, 110	125, 126											
以下	以上	以下, 以上	以下, 以上											
<p>HbA1c</p>	<p>赤血球中に含まれるヘモグロビンにブドウ糖がくっついたものを HbA1c と呼ぶ。検査直前の飲食に左右されず、過去 1~2 か月の平均的な血糖の状態を調べることができるため、糖尿病の診断や血糖値のコントロール状態を調べるために役立つ。</p> <p>高値：糖尿病、腎不全 低値：溶血性貧血など</p>	<p>HbA1c <%></p> <table border="1"> <tr> <td>適正</td> <td>軽度異常</td> <td>要注意</td> <td>要受診</td> </tr> <tr> <td>5.5</td> <td>5.6</td> <td>5.9, 6</td> <td>6.4, 6.5</td> </tr> <tr> <td>以下</td> <td>以上</td> <td>以下, 以上</td> <td>以下, 以上</td> </tr> </table>	適正	軽度異常	要注意	要受診	5.5	5.6	5.9, 6	6.4, 6.5	以下	以上	以下, 以上	以下, 以上
適正	軽度異常	要注意	要受診											
5.5	5.6	5.9, 6	6.4, 6.5											
以下	以上	以下, 以上	以下, 以上											

主な検査項目～4月から6月の健康コラムで紹介します

- 4月
- 5月
- 6月



▶ 毎年の経年の経過を確認しましょう

異常なしは、一般的に健康と考えられる平均的な数値です。検査値には個人差があるので、過去の値と比べて変化を確認しましょう。

▶ 「要精密検査」の場合は迷わず受診しましょう

去年と同じ結果だから様子を見よう。たまたま体調が良くなかったのかも自己判断はせずに医療機関を受診しましょう。

▶ 医療機関に行く時のポイント！

- ・伝えたいことをメモにしてまとめておきましょう。
- ・健診結果（あれば紹介状）を持参しましょう。
- ・医療機関によっては紹介状が必要な場合、初診は必ず予約が必要など様々です。事前に電話で問い合わせて「健診結果で〇〇の項目が再検査となっていますが診てもらえますか？」など確認すると良いでしょう。

▶ 健診結果を生活習慣の改善に生かしましょう

検査の内容によっては生活習慣を変えることでデータの改善につながります。日頃の生活を見直す機会にしましょう。

▶ 健診機関によって基準値が異なります。

受診した健診結果の基準値で判断しましょう。

